

香川医療生協 医学生 奨学生 募集中。

奨学金制度 の趣旨

この奨学金制度は、医学部卒業後に香川医療生協・香川民医連の病院で研修し、地域医療に参加しようとする医学生を対象に、勉学などの経済的な援助を行う目的で設けています。

奨学金概要

一般	1～2年生	5万円/月額
	3～4年生	6万円/月額
	5～6年生	7万円/月額
特別	全学年	12万円/月額

※返済免除規定あり

奨学生になったら

- point ① 全国の医学生と学び合えるチャンス！
- point ② 低学年から病院実習をかさねて将来の医師像を掴める！
- point ③ 学生生活中的サポートが手厚い！

高校生予約奨学金制度
もあります。

申し込みは随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

香川医療生活協同組合

厚生労働省 指定臨床研修病院 高松平和病院



みき分室 (医・看護学生サポートセンター)



〒760-8530 高松市栗林町1-4-1
tel.087-833-8113(代表) fax.087-831-1254

〒761-0701 木田郡三木町池戸1538-1森ハイツ1F

お問合せ・連絡先

高松平和病院

学生担当/中田、野口、花谷
tel.090-7579-4259 mail:heiwahp@gmail.com

香川民主医療機関連合会

高松市栗林町1-6-4
tel.087-836-9375
fax.087-836-9376



2016.9リニューアル

<http://www.heiwahp.com/>

高松平和病院 医学生・研修医のページ [検索](#)

～日々の学習企画案内・報告をblogで随時更新中～

編集 後記

初めてのKIMAI編集作業は大変でしたが楽しかったです。医師にインタビューを行う中で改めて意識の高さに感動し、尊敬と憧れの念を持ちながら自分自身の戒めにせねば!と感じる今日の頃。
(花谷)

発行元：香川民主医療機関連合会

2017 SPRING

KIMAI



医学生と香川民医連を むすぶ情報誌。

CONTENTS

- ・キラッとかがやく医師の仕事
- ・特集「地域医療を支える訪問診療」
- ・研修医日記
- ・年末企画「在宅療養の現場を知ろう」
- ・高校生の広場



香川民主医療機関連合会

※キマイ=讃岐(さぬき)弁で「来てね」という意味



香川民医連 ＊ラッパ かがやく医師のしごと

1990年以降、女性医師の数は年平均6%増加しています。
(日本医師会報告)
家事や育児を行いながら医師として働き続ける
宮武孝子医師(小児科)にお話してもらいました。

「こどものおいしゃさん」

私が医師になる!小児科医になる!!

高松平和病院で小児科医をしている宮武孝子みやたけたかこです。
私は5歳頃からアトピー性皮膚炎を持っていました。
当時アトピーは「大人になったら治る」とされていた
のですが、私は中学生から悪化する一方でした。

「高松平和病院に行くと＊食物除去をされて色んなものが食べられなくなる」との口コミがあり受診するのをためらっていたのですが、他院にかかり漢方も含めて10種類以上の薬を飲みつつ、ワセリンのせいで冷たく重くなったパジャマに嫌悪を抱きつつも朝晩軟膏を塗り続けましたが、アトピーはいつこうにもよくなりませんでした。そしてついに高校1年で高松平和病院を受診したのです。

そこで食物除去を開始すると、みるみるうちにアトピーは軽快していきました。そしてここを主治医と決めましたが欠点の一つ。「この病院ならアトピーが治る」という口コミのおかげで大変混み合っていて、予約を取っていても受診から帰宅まで3～4時間かかるのは当たり前、という状態だったのです。

「私が小児科医になって、この病院に入れば待ち時間は半分になる」そう単純な話でもないのですが、とにかくそれが私の小児科医志望動機です。というよりも「小児科医として高松平和病院に就職する」が一繋がり志望であったため、最初から大学病院に残るなどの選択肢は考えていませんでした。

＊食物除去…食物アレルギー症状を起こさないようにするために原因となる食物を食べないようにする治療法。



▲ランチ(火・木はうどんです!)

「こどものおいしゃさん」としてのやりがい

大学病院というのは高度医療機関です。白血病などの重症疾患、稀な遺伝子疾患群などの診断・治療に対応できます。逆にそのようなこどもが入院している病棟には水痘などの伝染する病気のこどもは入院できません。

市中病院で風邪や水痘などのこどもをみて、我々が手に負えないような病気の子は大学病院に送る、という分業が今ではある程度確立されています。

どちらが偉い、というのでは無いと思います。10年前だったら助からなかったような子を最新の知識で診断・治療する医師も必要だし、小児科では圧倒的多数の1週間以内に治る程度の感染性疾患の子を数多く診る医師も必要です。私の思い浮かべる「こどものおいしゃさん」のイメージは、まさしく後者でした。



▲まずは赤ちゃんと同様になります。



小児科医になって20年

「小さい頃はしょっちゅう熱を出してよく診ていた患者さんが大きくなってだんだん受診しなくなって、忘れた頃に産まれたこどもを連れてくる」という私の中での憧れのシチュエーションにはまだ経験年数が足りませんが、小児科医のやりがいはそれに尽きると思います。こどもには未来があり、たとえ病気でいったん羽を休めてもすぐに飛び立ち世界を広げていくのです。羽を休めている時を少しでも楽に過ごせるようにするのが、小児科医のお仕事だと思っています。



乳幼児健診

「乳幼児健康診査」が正式名称ですが、一般的には「乳幼児健診」や「乳児健診」と呼ばれています。生後間もない赤ちゃんの健康保持及び増進を図ることを目的とし、発育・栄養状態の確認、先天的な病気の有無・早期発見、予防接種の時期や種類の確認など、必要な項目を定期的にチェックします。

◀「目でものを追うか」の発達を調べています。



宮武孝子 医師

Doctor Takako Miyatake
profile
高松平和病院 小児科医
香川県出身 香川大学1995年卒業
高松西高校卒



Doctor Miyatake Interview

Q 趣味は?
A パソコンが趣味で特にシミュレーションゲームは大好きです。「ザ・シムズ」「トロピコ」等で楽しんでいます。

Q オススメの本は?
A アイザック・アシモフの作品の中でもSFものが特にオススメです。

Q 高校・大学時代で一番思い出に残っていることは?
A 高校の修学旅行の時だけ、それまでおこなっていた「食物除去」の治療を主治医が中断してくれました。お守り代わりの「紹介状」と飲み薬を持って修学旅行に参加して、いろいろな物を久しぶりに食べました。思いのほか、何を食べても大丈夫だったので、それをきっかけに徐々に「食物除去」の治療を軽減していきました。大学時代にはストレスフリー(受験勉強から解放された)になった事もあってか更にアトピーは改善されました。



医師ほど感謝される職業は他にはないと思います。
辛いこともあるけど、大変やりがいのある仕事です。頑張ってください。

Q 医師になってから一番思い出に残っていることは
A 研修先の病院で胃腸炎が流行っている時期に「嘔吐」で入院した患者さんが、半日で心肺停止になり、結果「脳腫瘍」だったことがありました。紹介で来院した患者さんだった為、そのお子さんの普段の様子が全く分かりませんでした。研修から帰って来た時に、同じく「嘔吐」で受診した患者さんは、高松平和病院がかりつけのお子さんで普段の様子をよく知っていました。「この子が2回吐いたくらいでこんなにぐったりするのはおかしい…」と考え頭部CTを撮ったところ「脳腫瘍」が見つかりました。この時にかりつけ医の大切さを改めて感じました。

Q 女性医師として働かれています、今までの経緯を教えてください。
A 医師5年目で29歳の時に結婚をしました。7年目31歳で第1子、9年目33歳で第2子を出産しました。子どもが小さいうちは勤務が18時に終了する「みき診療所」に勤めていましたが、下の子が小学校に上がるのを契機に高松平和病院で勤務をはじめました。今年、家事や育児の合間を利用して勉強し「日本小児科学会専門医」を受験し合格する事ができました。

研修医日記

研修医に日々の研修模様を語ってもらいます



植本一駿 医師

Doctor Kazutoshi Uemoto
Profile
高松平和病院三年目研修医
岡山県出身
香川大学2014年卒業
岡山理科大学附属高等学校卒

初めまして、2016年の9月から高松平和病院に勤務しています3年目の医師の植本一駿^{うへもと かずとし}といいます。1990年1月26日生まれの水瓶座です。3人兄弟の長男で、出身は岡山県倉敷市です。岡山理科大学附属高等学校を卒業し香川大学医学部に入学。大学の部活では主に軟式野球をしていました。趣味は麻雀・スポーツ観戦・ドライブ・旅行・漫画喫茶・カフェ・料理・ボーリングなど色々あって本当にどれが趣味なのか分からないくらいはあります。あと、最近ダイエットも始めました。ジムに行って身体を動かすのですが、定番のランニングマシンを走っていても何が楽しいのか分からず、筋トレばかりしていたらかえって体重が増えてきたため、この頃は危機感を覚えています。水泳も少ししたのですが、冬はほとんど行けていないので出来れば続けていきたいなと考えています。

研修医1,2年目は水島協同病院(岡山県倉敷市)で研修をしていました。3年目からは9月まで香川県立中央病院にて勤務しておりましたが、縁あって現在は高松平和病院で勤務しています。仕事に関しては徐々に慣れている最中で分からないこともまだまだありますが、なんとかやっています。診療や研修医にとって便利な医療器具や物品の請求をするのですが、手続きを取れば意外と採用されるのでありがたいな、と感じています。



▲植本Dr.初めての当直後お祝い

症例は消化器を中心に様々な患者様をみています…^{うへもと かずとし}といたいところですが、消化器はむしろ少なく呼吸器・循環器・内分泌系の患者様が最近多いです。今後は消化器内科を中心に他分野の疾患についても幅広くみれる医師になりたいと考えています。また、1月からは訪問診療をはじめ、在宅から病院まで患者さんと長くつきあえる医師になれるよう頑張っていります。

プライベートに関しては、1月に子どもが生まれる予定なのでとても楽しい気持ちで待ち遠しく思っています。初産なので妻の身体も心配ですが、お守りも5、6ヶ所です。買ったので大丈夫だと思います。また、僕と妻の誕生日も1月なので今後は1月が様々な行事と重なって忙しくなるのでは、とも思います。

大部分個人的な話で申し訳ありませんが、以上を自己紹介とさせていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。



地域医療を支える訪問診療

在宅医療とは～災害時医療と病院医療との関係性から～

みなさんは訪問診療などをする在宅医療にどんなイメージをもっているでしょうか。私が実際に診療に携わっていて感じている在宅医療の位置づけを「災害時医療」と「病院医療」との関係性から話したいと思います。

● ● ●

大規模災害時には、病院から医療スタッフが被災地に駆けつけます。日常の病院医療を続けながらなんとか現地で支援活動をする人材や資材を調達します。急性期には一刻も早く救命処置を必要とする者、歩行できないが生命の危機は迫っていない者、歩行可能で



必ずしも専門医の治療を必要としない者、死亡している者または心肺蘇生をしても蘇生の可能性の低い者などを医師がトリアージします。急性期をすぎると避難所の慢性疾患管理や衛生保持、リハビリ、メンタルサポートなどを行い、最終的には地域医療の再生と災害に強いまちづくりをめざしていきます。そのためには適切な情報と調整連携により、適切な場所に適切な人材と資材を投入することができる情報網の整備や医

療資源の把握、搬送手段の確保などの基盤整備が必要です。

● ● ●

病院医療は豊富な医療資源を投入し、一人の患者さんの診断と治療をいかに適切に短期間に効率的におこなうかを目的とし、チーム（感染対策、医療安全、栄養サポート、褥創チームなど）が病院全体をラウンドし、医療の質を全体として向上させ、入院患者一人一人をサポートしています。これに対して、災害時には最小限の医療資源を適切な場所に配置し、しかも刻々と変化する地域のニーズに応える必要があります。

● ● ●

このような見方に立つと、在宅医療は「災害時医療」と「病院医療」の中間にあたると言えます。地域に点在する患者宅を定期的に訪問し、急な病気の時には入院の手続きをとり、在宅での病状が安定している時間をできるだけ長く続くように慢性疾患管理をし、最期は在宅で迎えたいとの希望があればその希望に沿うようにします。いわば訪問先ごとにトリアージをしているようなところがあります。患者さんの病気の診断と治療はほんの一部で、人生の終末期に至るまでの長期間の生活を支える仕事です。病院医療や災害時医療と違って、患者さんは「在宅でこのようにしたい」と自分なりの希望を表明し、私たちもその希望をかなえようとします。家族を含めて患者さんを取り巻く環境を整備し、訪問看護、リハビリ、薬剤、歯科など必要な医療介護サービスを、患者さんの選択にもとづいて提供します。急な病気になった時の入院先や、家族の介護負担を減らすための介護施設との連携、ケアマネージャー、ヘルパーなどの介護スタッフとの連携にも留意します。在宅医療にも災害時のような情報網や医療介護の連携

が大切になります。

自宅で妻や息子、娘に介護され苦痛もなく最期を迎える患者さんは幸せだと一般的には考えられています。しかし、地域にはさまざまな困難を抱える患者さんも見受けられます。

● ● ●

「一人暮らしで経済的に困難を抱えている」「認知症の妻が寝たきりの認知症の夫を介護している」「要介護状態の親の年金をあてに生活するひきこもりの息子がいる」「精神障害者を持った娘を認知症の親が介護している」「家族のひとりگانになった」など、こうした困難を抱えた家庭が増えています。これらの困難に対して私たち医療従事者や福祉、行政担当者がお互い連携しながら解決の糸口を見出していくことに、在宅医療の大きな意味があるのではないかと考えています。

● ● ●

地域を見守り、チームで地域の困難を解決し、ひいてはまちづくりにも貢献するという大きな夢を持って私たちは日々活動しています。

田中眞治 医師

Doctor Shinji Tanaka
profile
生協みき診療所所長
香川県出身
愛媛大学1979年卒業
高松高校卒



高松平和病院で 訪問診療を行っている 原田真吾医師に インタビューをしました。

Doctor Shingo Harada Interview

Q 「高松平和病院の行っている訪問診療の特徴を教えてください。」

A 「私が行っている訪問診療は、病棟や外来で受持ちだった患者さんをそのまま自宅で診療を継続しています。」

Q 「患者さんにとって訪問診療のメリットは何ですか？」

A 「私が主治医だったことで、患者さんの今までの治療経過もわかっているし、家族との関係や訪問看護などの連携も取りやすいところです。また、病状が悪くなった時などにすぐに入院できる体制がとれることが一番大きなメリットだと思います。」

Q 「訪問診療を利用する患者さんはどんな病状の方がいらっしゃいますか？」

A 「受診が難しい寝たきりの方、病院へ連れてこれる家族がいない方、介護施設に入所している方が中心です。筋ジストロフィーやALS（筋萎縮性側索硬化症）のような神経難病の方も10名程度訪問診療しています。人工呼吸器をずっとつけていないといけいない方もいて、訪問看護との連携がたいへん重要になっています。」

Q 「高松平和病院が訪問診療を行っている患者さんは何人いますか？」

A 「病院全体では90人くらい、私の受持ちは20人強くらいです。毎週水曜日に内科看護師とペアになって訪問診療に行っています。」

Q 「訪問診療をおこなっていてどんなところにやりがいを感じますか？」

A 「自宅での患者さんは、入院中とは違って、非常にいきいきとした表情で生活しています。病院にいと型にはまった病人とならざるをえないですが、家にいると自分のペースで生活でき、ある意味「余裕を持って生活できる」そんな姿を見ることができるのは、訪問診療ならではの姿だと思います。また、患者さんの家の立地や間取り、臭い、雰囲気などを五感で感じて、疾患のことだけでなく、深く患者さん全体を理解して診療することができるところにやりがいを感じています。」



医師になって3年目から訪問診療の担当になりました。今後高齢化社会がすすむと受診・通院困難患者（癌患者さんの在宅看取りなども）が増え、訪問が必要な患者さんも増え、訪問診療はますます重要な位置を占めることが予想されます。

訪問診療は病院の外来診療とは違って、医療者がお客様となり、患者さんの自宅で医療や介護を行います。（清潔・不潔の概念など病院での常識は簡単に覆されていることもしばしば）その分、患者さんや家族との信頼関係がなければ成り立ちません。

初めて訪問診療を開始するお宅では、医学的な病状のことは二の次にして、まずは患者さんや家族（介護者）がどのような生活・一日を過ごしているのか、などについて直接聞き、理解する事で、患者さんや家族と信頼関係を築いて以後の訪問診療をスムーズにすすめることができると考えています。

原田真吾 医師

Doctor Shingo Harada
profile
高松平和病院 内科医
大阪府出身
香川大学2004年卒業
茂木高校卒



Interview

S様の介護をされているお姉さんにお聞きしました。

S様 68歳 男性（高松市太田町）

S様は幼少期より「水頭症」等を患っており、若年期は障害者支援施設に入居されていました。病状が重くなるにつれて介護の必要性が高くなり、介護ヘルパーの資格を持つお姉さんと同居。原田医師が訪問診療をおこなっている際、患者さんのお姉さんに「高松平和病院の訪問診療」についてたずねてみました。

Q 「訪問診療を利用する様になったきっかけはなんですか？」

A 「病状が重くなり外来通院が困難になった時、当時のかかりつけ医から「訪問診療なら若くて良い先生がいる」との事で高松平和病院の紹介を受けました。高松平和病院は家族も受診した事があり「親切で優しい病院」との印象が当初からあったので、抵抗はありませんでした。2014年から訪問診療を利用しています。」

Q 「訪問診療を受けていて良かった事は何ですか？」

A 「訪問診療は月に2回来てもらっていますが、その他に香川医療生活協同組合の関連施設から「訪問看護」「訪問リハ」「訪問歯科診療」を受けています。それぞれ施設同士が情報共有し相談して、私たちのケアをしてくれていると感じます。特に週3～5回来てくれている訪問看護師と原田医師との連携が取れている事や何かあ

れば休日でも訪問して下さるのが安心につながっています。」

Q 「原田医師についての印象は？」

A 「病気だけでなく患者本人の生活背景や生い立ちを含めてよくみているなあと、感じます。また患者だけでなく付き添い家族の私に対しても真剣に考えて下さいます。今思うと、私との何気ない会話の中からケアに必要な情報を先生は聞きとっていたり、私が在宅介護をするにあたって教えてくれているのだと思います。最近意思疎通が難しくなった弟にも声掛けやスキンシップをとってくれます。以前、明け方なのに様態の悪い弟の為に点滴に来てくれた事がありました。医師といえば堅苦しいイメージがありますが、原田先生は話しやすいし私達姉弟にとっていて下さらなければ困る存在です。毎日原田先生に感謝しながら生活しています。」

香川県在住、または香川出身の医療系学生対象の「在宅療養の現場を知ろう」を開催し、医学生3名、薬学生2名、看護学生12名が参加しました。この企画は、高齢一人暮らしや老老介護をされているお宅等に訪問して、ちらし寿司とお正月飾りを届けています。少しでも晴れやかな気持ちでお正月を迎えてもらえたら…ということから始めた企画で、今回で4回目となります。

午前中は、医療生協の組合員さんの協力を得ながらちらし寿司作り。午後からは、訪問する前の事前学習として、原田真吾医師のミニ講演（私たちの大事にしている地域医療）を聞きました。そのあと、訪問先世帯の簡単な生活状況を共有しながら、グループ別にどんなことに困っているだろうか等を話し合いました。夜はみんなでおいしい鍋を作って食べ、ゲームをしたり学校の話をしたりして盛り上がりました。

事前学習を終えたあと、各グループ2～3世帯のお宅に訪問しました。利用している介護サービス状況や、いま感じている不安や要望、昔の話等様々なお話を聞くことができました。参加学生も、実際に生活されている家の環境を自分の目でみる大切さを学び、生活背景を知る重要性や、その人にとって何が最善なのか、を考える難しさと重要性を感じたようでした。訪問先の方々にも「待っていたよ、ありがとう。」と喜んでいただけたので、また来年も開催したいと思います。



◀毎年好評の干支飾り
▼お寿司とメッセージカード



▲ちらし寿司と正月飾りを持って訪問先へ出発

感想

- 在宅訪問をしてみて、その人の生活を知るということは、自宅に訪問することでより知ることができるとが分かりました。それぞれの生活が違うので、自分の価値観にとらわれて押しつけてはダメだなと思いました。
- 例年通り楽しいイベントを過ごすことができました。異なる学校の話を知ることができてよかったです。
- 座学とは違った、臨床の場でしかわからない事を知ることができてよかったです。
- 退院後のその人の生活を知ることの大切さを学びました。入院中の患者さんばかりに目がいきがちですが、退院後の生活やその患者さんを支えている家族のことも考えたいと改めて感じました。

01



高校生 1日医師体験は 毎年春・夏休み開催

- 1回目 ベーシックコース
- 2回目 ステップアップコース
- 3回目以降 アドバンスコース

02



医学科 受験模擬面接 (3年生・予備校生対象)

- 毎年10月と2月に開催

香川県内10高校から23名の参加。

面接官は、高松平和病院の医師や看護師長などの職員。1回の面接ごとにアドバイスをしてくれ、さらに本番にとっても近い感覚で練習ができました。

個人面接と集団討論の練習

地元香川大学の入試方式に沿って、“個人面接”“集団討論”の模擬面接を実施。参加者の中には他大学志望者もいましたが気をつけることは共通しているので、どの参加者にとっても参考になったと思います。面接の後は面接官からフィードバック。良い所や直した方がいい所などを知ることができました。

面接官、高松平和病院からエール

集団討論では、講評を受けて面接を重ねていくうちに、みなさんの熱量がだんだん上がっていくのが伝わってきました。みなさんの目標達成に向けて少しでもサポートできたのかと思います。この先も私たちは応援しています！



感想

- 他校の人たちと討論をして、自分の知らなかった知識を知ることができた。
- 周りが知らない人の中での集団討論は中々できるものではないので、参加してすごくなった。
- 早い時期から面接の練習をさせてもらえて大いに勉強になった。
- 自分にあまり医療に関する知識がないことを痛感した。
- 同じ学年でも他の人たちは色々なことを考えていると感じ、自分もっと興味をもってアンテナをはれるようにしたい。
- 面接官からの講評から、良かった点悪かった点など聞けてたくさん勉強になった。



【紹介者】
香川医療生活協同組合
組合員活動部
岸本大助

URL: <http://open4.jp/>

生協と趣味（オープンカー生活）

はじめまして。香川医療生活協同組合員活動部で働いています岸本です。

まず“組合員活動部”ってどんな仕事をしているの？とよく聞かれます。大学生協、県庁生協、保険の生協といろいろあります。医療生協は、医療機関の運営を主な事業とする生協で、「健康で長生きしたい」と願う人々がみずから（出資）（利用）（運営）し医療従事者と一体となって健康づくり運動をすすめる協同組合です。その中で、組合員自らが「健康チェック」や「検診」ととりくみ、日頃から健康を守る活動をサポートする部署が組合員活動部です。

そんな私の趣味はオープンカーでのドライブです。これから春先にかけては屋根をあげてドライブするのに気持ちの良い季節となっ

てきます。オープンカーが好きな方々が集まる「Open4」クラブに参加しています。20～70代までのメンバーで集まって、性別、職業などにせず楽しく遊んでいます。オープンカーに興味のある方はお気軽にクラブに参加してくださいね！まずは、ホームページに遊びの来てください。「Open4とググってみてくださいね」

